

令和2年度 学校評価【計画書】

<p>《学校教育ビジョン》 教育目標 「かしこく やさしく たくましく」 ・ 自他を認め大切にすることをもち、自ら考え判断し実行する子の育成 〈すすんで学ぶ子〉 〈やりぬく子〉 〈健康で思いやりのある子〉</p>
--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
①教育課程・学習指導	・国語科において主体的に取り組む児童を育てる。	・学年でつきたい力を学力向上ロードマップに明確に記載し、主体的な学びにつながり、つきたい力が子どもたちに身につく授業改善に取り組む。	教務・学習指導部	・主体的に問題から大切なことを読み取り、自分の考えを伝えたり書いたりすることを苦手と感じている児童が多い。	(満足度指標) ・つきたい力が子どもたちに身につくように授業改善を進めている。	学力向上ロードマップに基づいて授業改善が進められたと答えた教職員の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	教職員アンケート(学期末)
	・読む力の向上を図る。	・朝自習、帯タイムを活用し、短時間で文章を読む力、読解力、活用力の向上を図る。	学習指導部	・読むことに対して苦手意識を持っている児童が多い。 ・学力テスト等では、問題文を読み切れず、読むことに課題がある児童が多い。	(成果指標) ・国語学期末「読む」テストで80点以上取ることができる。	国語学期末「読む」テストで80点以上取ることができた児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	国語学期末「読む」テスト
②生徒指導 ※いじめの未然防止	・児童の自己肯定感を高める。	・学級活動などで構造的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを学期に1回は実施し、共感的人間関係を育み、自己肯定感を高める。 ・日々の授業の中で児童を認める声かけをする。 ・各学級で「良いところ見つけ」を行う。 ・人権週間を利用し「ほっかほかレター」に取り組む。	生活指導部	・友だちのよいところ見つけや、ほっかほかレターなどの取り組みで、児童の自己肯定感が向上してきたが、依然として低い児童がいる。	(成果指標) ・自分のよさを積極的に見つけようとする。	自分には良いところがあると答えた児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童アンケート(学期末)
	・いじめ防止基本方針に基き、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	・いじめに関する点検カードを定期的実施し、児童の様子を把握する。 ・いじめ問題対応アドバイザーやSOを活用しながら、職員のいじめ対応力の向上に努める。	生活指導部	・点検カードを実施し、児童の様子を観察したり気になる児童の話をきいたりすることができた。保護者、地域の方々の声にも耳を傾け、いじめの早期発見に努め、教職員全体が普段からいじめを意識して指導に当たる必要性を確認した。	(満足度指標) ・常に、いじめ問題を念頭において、児童の指導にあたる。	常にいじめ問題を念頭において、児童の指導にあたっていると答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(学期末)
③進路指導・キャリア教育	・キャリア教育の4つの柱の中の「自己理解・自己管理能力」を高める。	・子どもたち自身が自己のめざす姿を明確にし、学期ごとに計画的に取り組む。	生活指導部	・与えられたことには素直に取り組む児童が多いが、自分で目標を持って、いろいろなことに取り組もうとする意欲が低い。	(満足度指標) ・キャリア教育で育てたい力:自己理解・自己管理能力(学年の重点項目)を意識して、キャリアパスポートを活用してワンランクアップをめざした指導を行う。	学年の重点目標を意識し、キャリアパスポートを活用してワンランクアップをめざした指導を行ったと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(学期末)
④保健管理	・児童の体力を向上させる。	・体育の学習の予備運動として、コーディネーショントレーニングを取り入れ、運動能力の基礎作りを行い、運動に対する意識の改善に取り組む。	健康指導部	・走ろう運動やスポチャレを行い体力の向上を図っているが、運動に対する意識の二極化がみられ、D・E群の児童が増えてきている。	(成果指標) ・学期末に児童アンケートを行い、「運動することが好き」という肯定的な回答の割合が、85%以上になる。	学期末に運動することが好きと答えた児童の割合が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	児童アンケート(学期末)
	・基本的な生活習慣を身につける。	・児童健康委員会の活動で、睡眠をはじめとした免疫力を高めることに関する取り組みを実施する。 ・生活習慣チェックに取り組む。	健康指導部	・就寝時間が遅い児童が多く、1日のメディア利用時間が3時間以上の児童(3～6年)の割合が61%と生活習慣が乱れている児童が多い。	(成果指標) ・低学年9時間、高学年8時間の睡眠時間を確保する。	低学年9時間、高学年8時間以上睡眠がとれている児童が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	児童アンケート(学期末)
⑤安全管理	・各種の訓練を通して、児童の危機対応力と教職員の危機管理能力を高める。	・危機管理マニュアルに沿った方法で訓練や研修を実施し、児童の危機対応力と教職員の危機管理能力が高まるように努める。	教頭・各担当	・火災・地震、不審者対応の避難訓練を実施しているが、教職員の危機意識維持・向上には不断の取組が必要となる。	【成果指標】 ・緊急時の対応マニュアルに従って、教職員や児童が適切で安全な避難行動ができる。	避難訓練時に、教職員・児童が適切に行動できたと感じた教職員・児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童アンケート(避難訓練後)教職員アンケート(学期末)
⑥特別支援教育	・校内支援を充実させる。	・各担任から児童の様子を聞き、計画的に、また必要に応じて校内支援委員会を実施する。 ・支援方法を検討し、全職員で共通理解のもと、指導に生かす。	生活指導部	・校内支援委員会、児童理解の会で困り感を持つ児童の情報共有を続けている。今後も継続して保護者や専門機関との連携を図り、支援策について検討し、全職員で対応していく必要がある。	(満足度指標) ・校内支援委員会で具体的な支援策を検討し、全職員で支援に努める。	校内支援委員会で具体的な支援策を検討し、組織的に支援を行えたと答えた教職員の割合が A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	教職員アンケート(学期末)
⑦組織運営・業務改善	・教職員の業務内容や役割の適正化等により、業務改善を図る。	・運営委員会や部会を開催し組織的に学校運営を図りながら、業務改善・スリム化に向けた取組を進める。	教頭・教務	・会議の効率化を図ったり各部の業務を協働的に行ったりするなどの取組や教職員が退校時刻を意識して業務を行うようになったことにより、業務改善がやや進んできた。今後も、少しでも業務改善につながる実行可能な取組を追求していく必要がある。	(努力指標) ・業務改善の取組や教職員の意識改革を進める。	業務改善の取組や意識改革が進んでいると感じた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(学期末)
⑧研修	・ワンランクアップを目指した若プロ・校内研修を充実し、授業改善を図る。	・校内研修サポートを活用し、計画的に授業研究を行う。 ・授業改善のためのOJTが日常的に行われるような環境を整える。	教務・学習指導部	・新学習指導要領を視野に入れて、授業実践に取り組むことを共通理解している。	(満足度指標) ・研修やOJTをもとに授業改善に取り組んでいる。	研修や日常的なOJTをもとに前学期より授業改善ができたと答えた教職員の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	教職員アンケート(学期末)
⑨保護者、地域との連携	・教育活動の発信に努め、保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを目指す。	・教育活動の情報発信を積極的に進めるとともに、保護者・地域と連携した教育活動を推進する。	教頭・各担当	・学校便りやHPなどで、学校の様子を家庭や地域に発信している。様々な教科・行事で地域の人材を生かしているが、年間の見直しをもって取り組む必要がある。	(努力指標) ・教育活動の発信に努め、保護者や地域と連携した学習活動を行う。	教育活動の発信と保護者や地域と連携した学習活動が積極的に進んでいると答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート(学期末)
⑩教育環境整備	・教育環境の整備に努める	・計画的に、校舎内の掲示・展示スペースを有効に活用し、知徳体の育成につながる工夫をする。	学習指導部	・掲示計画を作成し、それに沿って担当者が工夫して行っている。目的に応じたよりよい環境整備を目指す必要がある。	(満足度指標) ・学習指導部を中心に、掲示(展示)計画を立て、目的に応じた環境整備を行う。	掲示に興味を持って見ていると答えた児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	児童アンケート(学期末)